

# 清水窪小 授業改善推進プラン2018

大田区立清水窪小学校

～意欲を育み 未来を拓く～ おおた教育振興プラン2014  
重点的に進める教育施策の方向性6つのアクションプラン

大田区教育委員会

- 6-1 学力向上アクションプラン
- 6-2 豊かな心を育むアクションプラン
- 6-3 体力向上アクションプラン
- 6-4 教育環境向上アクションプラン
- 6-5 家庭・地域教育力向上アクションプラン
- 6-6 地域教育アクションプラン

## 学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、国際社会において信頼と尊敬を得られる人間の育成を願うとともに、東京都や大田区の教育目標の趣旨を踏まえ、本校の豊かな学習環境を生かし、知性と感性に富み、主体的に行動できる児童を育成できるように、次の目標を設定する。

- 自然や友達を大切にすること
- 心身ともにたくましい子ども
- よく考え、最後までやりぬく子ども

## 学校経営方針

本校は、平成23年度に「おおた教育振興プラン2014」学力向上アクションプランにおいて「おおたサイエンススクール」（理科教育研究推進校）に指定されるとともに、平成25年度には文部科学省教育課程特例校に指定され、独自教科「サイエンスコミュニケーション科（以下、「SC科」という。）」を全学年で実施するなど科学教育の推進を通して、知・徳・体の調和の取れた共に学び、共に生きる力の育成を目指しています。

今年度は、11月26日（月）にSC科の研究発表を行います。そこでは、育成する資質・能力、対話の在り方等の改善策を明確にしてSC科の質的向上を図り、理科をはじめとする学力の向上につなげていくための授業改善に取り組んでいます。

## 育てたい子どもの力

## 共に学び、共に生きる力

～自立した人間として、力強く生きていくための総合的な力となる人間力～

## 科学大好きな子どもを育てる

### 今年度の重点目標

科学教育（理科教育）の推進を通して、自然や人、もの、ことと豊かに関わり、科学的思考力、コミュニケーション力を発揮して、主体的・対話的に学びを深め、共に学び、共に生きる力を育む教育活動を進める。

### 目指す子どもの姿

- ◆ 「なぜ」「どうして」を大事にして「やってみよう」と、自ら問いをもち、問題を追究している子ども
- ◆ 主体的・対話的に学びを深め、学んだ知識を知恵として学習・生活に生かしている子ども

## 全教科等に関わる授業改善 6の基本方針

- ◆ 全教科等において、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を具体化すること
- ◆ 児童が自ら問いを見だし、見方・考え方を働かせて、主体的に問題を解決していく授業をつくりだすこと
- ◆ 人、もの、こととの豊かな関わりや対話を通して、試行錯誤しながら考えを広げ深めていく授業をつくりだすこと
- ◆ 効果的にICTを活用し、児童が興味・関心を高め、どの児童にもよく分かる授業をつくりだすこと
- ◆ 児童の活動の姿等から学習状況を丁寧に見取り、その評価を基に指導法の見直しや個に応じた指導の充実を図ること
- ◆ 校内研究・研修、教員相互の授業観察、OJT等を通して自己の授業力を向上させるために学び続けること

## 生きる力（知・徳・体）に関わる具体的な改善策

### 確かな学力の向上

～問題解決する力の育成～

- ◆ 指導過程を主体的・対話的で深い学びの視点から見直し、改善
- ◆ 能動的な問題解決の活動を創り出すための授業の導入・発問・教材等の深い研究
- ◆ 個々の学習状況の的確な見取りと指導の見直し、個別指導の充実
- ◆ 必要感のある対話場面の設定と手だて
- ◆ ICTの積極的・計画的な活用
- ◆ 実感を伴う理解を図る具体的な体験活動を計画的に取り入れた授業への改善
- ◆ 探究的な学習過程の具体化
- ◆ 読書週間の設定による読書活動の質的向上
- ◆ 学習意欲を喚起し、学びの過程や成果が見える豊かな学習環境の構成
- ◆ 清水窪スタンダードに基づいた学びの基盤となる学習規律の確立
- ◆ 「授業力」診断シートの活用

### 自分や他者を大切にする心・社会性の育成

～人として生きていくために大切な規範意識の向上～

- ◆ 人権教育プログラムを活用した自他の大切さを認めることができる子供の育成
- ～教師の言動、掲示物、文書作成等における人権上の配慮の徹底～
- ◆ 教師の明確な指導観に基づく考え議論する道徳科授業への質的転換
- ～教科書教材を使用した確実な実施～
- ～役割演技、問題解決的な学習の活用～
- 「清水窪スタンダード」に基づく日常的なきまりの必要性の認識を高める指導を通して規範意識の向上
- ～学習や生活、遊びの中でのルールの大切さの認識～
- ～電車・バス利用のルールとマナーの指導の徹底～
- 異学年での継続的な交流活動の充実
- 地域や外部の方々との触れ合いを通じた社会性の育成

### 健康・安全で活力ある生活を送るための基礎となる体力の向上

～自ら健康で安全な生活を創り出す力～

- 校内の安全・安心な環境整備と防災・交通事故防止・不審者対応等、危険を回避する能力を育てる安全教育
- 「早寝・早起き・朝ご飯」を通じた、健康的な生活習慣の確立
- 一日合計60分を目安とした運動・外遊び等の促進
- 食の素晴らしさなどの興味・関心を高め、望ましい食習慣を形成する食育の推進
- 体育授業の改善、たてわり運動、大縄跳び、持久走等、一校一取組の充実
- 体育・健康教育授業地区公開講座の実施による家庭・地域等との連携

# 授業改善に向けた視点

## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ① **主体的な学びの視点** 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びが実現できているかという視点で改善する。
  - ② **対話的な学びの視点** 子供同士の協働、教職員や地域の人の対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める学びが実現できているかという視点で改善する。
  - ③ **深い学びの視点** 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びが実現できているかという視点で改善する。
- 各教科ごとのシートの改善策「全体」欄に、各教科の特質に応じてどのような学習活動への改善を図るのかについて明記する。

## 各教科における授業改善の重点

- 国語：「話すこと・聞くこと」、コミュニケーション力の重点的な指導、学校図書館活用等による語彙力の向上
- 社会：調べたことや資料を読み取り、自分の考えを表現する情報収集・活用力を育てる指導、日常生活との関連の拡充
- 算数：自力解決力の育成、個に応じた指導の充実、補充・発展学習、学習力カウンセリング、東京ベーシックドリルの効果的な活用
- 理科：観察・実験を通じた主体的な問題解決の学習による科学的思考力の育成、考察過程の重視、科学用語・機器扱い方の確実な習得  
サイエンスコミュニケーション科と関連させた体験的学習、発展学習
- 生活：「見付ける」「比べる」「例える」を通じ、理科につながる素地、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る学びの基礎力を培う学習の充実
- 音楽：意欲的音楽活動の充実、発達段階に即した音楽表現の創意工夫、鑑賞の機会における言語表現の工夫
- 図工：美しさを感じ取る心、よさを認め合う心情の育成とそれらを制作や鑑賞に生かす指導
- 家庭：衣食住に関する実践や体験を通じ、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、日常化を図る指導の充実
- 体育：児童が意欲をもち、めあてを明確にして運動するための活動や運動の段階の提示、運動に関する思考・判断、技能の確実な習得  
**サイエンスコミュニケーション科（全学年において年間35時間実施）**
- 児童の「なぜ」という疑問を深化・発展・継続すること、知的探究心や理科学習で得た知識の活用、科学史・最先端技術・知識等の学習を通じた科学的思考力や表現力の育成、我が国における科学技術を支える国際的に活躍する日本人の素地の育成

### 教育課程編成の工夫・改善

各教科等のそれぞれの基礎学力観に基づき、重点指導目標に即した年間指導計画と評価計画を作成する。その計画の実践・評価・改善のサイクルを推進するとともに、文部科学省教育課程特例校として特設したサイエンスコミュニケーション科の充実を図るなど、カリキュラムマネジメントを通して教育課程の適正な実施を徹底する。

### 学習指導の工夫・改善

- 全教科等において問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、子どもの自主的・自発的な学習を一層充実させる。また、副担任の配置により学習状況等を丁寧に見取り、個に応じた指導の充実を図る。
- 算数科では、少人数に分けて習熟度別指導を行い、個に応じた指導を充実させる。ステップアップ学習、東京ベーシックドリルを活用する。
- 国語科では、話し合う力を発達の段階に応じて育てるとともに、教科の特質に応じた言語活動を計画的に指導し、コミュニケーション力の向上を図る。また、音読による内容理解、漢字小テストでの漢字の習得など国語の基礎・基本の確実な定着を図る。朝読書、図書の日、読書週間において、読書学習司書を活用して読書活動を充実させ、読書習慣を身に付け、読書の質を向上させる。
- 理科・SC科では、問題解決の力の育成のため、自然現象に働きかけ、問題を見だし、予想・仮説を設定し、結果の見通しをもった観察・実験を通して妥当な考えをつくりだすといった一連の問題解決の過程に添って主体的に学習を進める態度を育成する。また、おもしろ理科教室やSC科における東京工業大学との連携、SC科見学を通して、科学への興味・関心を高めていく。

### 学習評価の工夫と指導方法の改善

- 各教科等のいずれにおいても評価規準を明確にした評価計画に基づき、形成的評価を適正に行い、その結果から柔軟に指導方法を工夫改善しながら子どもの学習意欲の喚起・継続、及び基礎学力の定着につなげていく。
- 教師の授業改善への取組状況を検証・評価し、その結果に応じて指導方法の見直しや個に応じた指導の充実を図り、一人一人に分かる喜びやできる楽しさを実感させられる授業へと更に改善していく。

## 研究・研修活動の推進

「おおたサイエンススクール」として、「科学大好きな子どもを育てる」を研究主題とし、**理科教育の推進に資する研究を進める。**そのために、文部科学省教育課程特例校として特設した独自教科「サイエンスコミュニケーション科」の質的向上を図る。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善、特別支援教育の充実、いじめの未然防止等、今日的な教育課題に関する校内研修を計画的に進める。また、OJTとしては、各自で研修テーマを設定し、教員相互で授業を公開し合って互いのもつ知識・技能を学び合うことにより切磋琢磨し、各自の指導力の向上を推進する。

区教研やその他の研究・研修会に積極的に参加し、その成果を自己の授業に生かすとともに、校内に普及啓発する。

## 家庭・地域社会との連携等

学校だよりの発行、ホームページの更新により、学校の教育目標や経営方針についての理解と協力が得られるように努める。

保護者や地域教育連絡協議会等の外部評価及び各行事や学校公開時のアンケート調査により、本校の教育活動に対する期待・要望を把握し、目標設定に反映させていく。

学校支援地域本部により、土曜わくわくスクール・夏休みわくわくスクール、地域人材・施設の活用や地域の教材化を拡大する。

保護者・地域に「科学大好きな子どもを育てる」環境づくりの一層の理解啓発に努める。